

議事録

次の会議を開催した。

会議名	令和7年度第1回藤沢市2040年問題及び長期ビジョン検討委員会
開催日	2025年（令和7年）8月21日（木）17:10～17:25
場 所	本庁舎6階 庁議室
出席者	行政総務課長、企画政策課長、秘書課長、職員課長、財政課長（欠席）、防災政策課長、市民自治推進課長、生涯学習総務課長、福祉総務課長、地域医療推進課長、子ども総務課長、環境総務課長、産業労働課長、建設総務課長、都市整備課長（欠席）、道路下水道総務課長、病院総務課長、消防総務課長、教育総務課長（欠席）
議 事	(1) 前年度の振り返りと委員会の設置目的について (2) 長期見通しに必要なデータリストの確認について (3) 次期総合指針改定を見据えた方向性について
内 容	1 開会 2 議事 （1）前年度の振り返りと委員会の設置目的について ＜内容＞ 事務局から資料1～3に基づき、委員会設置目的や所掌事務、昨年度の開催状況等を説明した。 ＜主な意見等＞ なし。 （2）長期見通しに必要なデータリストの確認について ＜内容＞ 事務局から資料4に基づき、「長期見通しに必要なデータリスト」について、データに基づく政策形成への意識醸成と、次期総合指針に使用することなどの目的を話したほか、データ更新があれば事務局に知らせてほしいと説明した。 ＜主な意見等＞ なし。 （3）次期総合指針改定を見据えた方向性について ＜内容＞ 事務局から資料5に基づき、今年度以降の検討体制について、委員会だけでなく、幅広い職員に研修のような場を利用して参加してもらい、長期的な課題等を洗い出すとともに方向性を検討し、3年間かけてレポート形式でまとめたいと説明した。 ＜主な意見等＞
内 容	＜主な意見等＞

	○議論するのは大事であり、実施については賛成だが、議論した結果、予算が必要なケースも多いと想定されるので、課題の洗い出しをするなら予算に直結できるような体制で進めてほしい。各課における労力をかけるメリットを見出してほしい。 ⇒今回の会議の場は 2040 年問題として、長期の方向性を見定めることを考えているので、予算はその先になってくると思っている。人口構造の変化がいろんな視点に影響を与えるので、市としてひとつの共通の視点を持ち、指針の改定を進めたい。 ⇒この取組が短期的に事業につながっていくことも大事だが、そのためにも将来のビジョンや取組を示すことが重要である。財政運営を考えると、どこにお金を投入するかなど、投資と回収の観点での分析につながるとしている。 ○2025 年問題のときは、団塊の世代が 75 歳以上になることが課題となり、地域包括ケアシステムで対応していこうという流れとなった。2040 年には団塊ジュニア世代の全員が 65 歳以上になる。少子化、生産年齢人口の減少が進む中で、2040 年以降の、さらに厳しい時代を迎えた時に、どうやって持ちこたえていくのかという視点が大事である。今からバックカスティングの視点で検討を行うとしても、議論の項目があまり拡散しすぎないように検討していく方が良い。例えば、消防局では、高齢化によって救急需要が増えることが想定されるが、拠点、装備や隊員を無制限に増やせないの、救急搬送体制の工夫を進めているが、良い例だと思う。2040 年に向けて今から何をしていかななくてはならないのかを検討することは意味があるのではないかな。 ⇒2040 年問題の事務局説明を省いてしまったが、人手不足の課題などがある中で、何をしていくか、次の世代の現役世代とも話していく必要がある。 ○財源の話は重要で、令和 9 年には厳しい財政状況になるので、そういった意味では行革を進める行政経営室にも事務局に加わるなどして、今やっているものをやめていくことも含めて議論していくことが必要ではないかな。 ⇒そういったことは不断の取組だと思うが、スキームを組み入れられるか検討したい。 3 閉会 今年度は 2、3 回の開催予定とあるが、場合によってはもう少し回数を増やして検討を前倒しにする可能性があることを委員に伝え、終了。
--	---